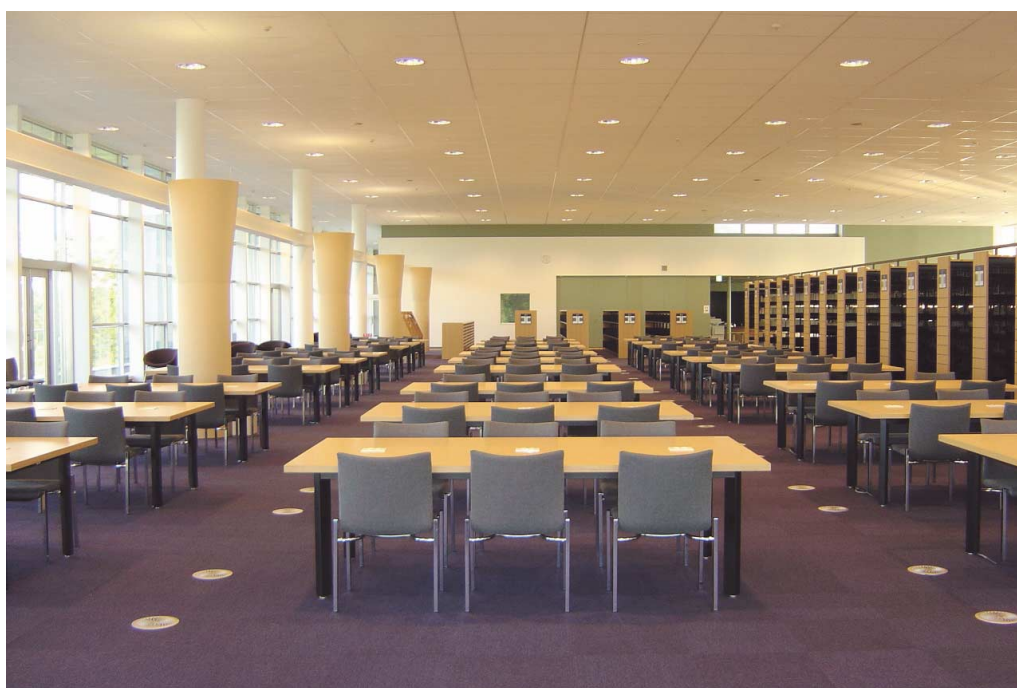




# 学内広報

No.1291

2004.5.26  
東京大学広報委員会



柏キャンパスに柏図書館が5月13日部分開館（9ページに関連記事）

## CONTENTS

特別記事	2	寄付研究部門発足記念シンポジウム「次世代ディスプレイの展望」開催される、国際沿岸海洋研究センターにて今年度の海洋環境臨海実習が行われる、柏キャンパスに柏図書館が5月13日部分開館
平成16年度入学式祝辞（ビデオレター）Lawrence H. Summersハーバード大学学長、鄭雲燦ソウル大学校総長		
キャンパスニュース	5	本郷キャンパス・ツアーガイドの募集、駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）一般公開、第9回東京大学史料編纂所史料学セミナー、総合研究博物館十大学史史料室「東大総長のプレゼンス―渡邊洪基から内田祥三まで」展開催のご案内、データベース定期講習会のお知らせ、第26回東京大学農学部公開セミナー「機能性食品と健康」開催
大学院学生学術研究奨励金の採択決まる		
部局ニュース	5	淡青評論「理科離れとラジオ少年」
大学院医学系研究科・医学部及び医学部附属病院における知的財産・利益相反に関する説明会の開催、北海道演習林に道内でも屈指の植物標本庫が完成、新「大学院情報学環・学際情報学府」看板を掲げる、文科省・経産省プロジェクト合同成果報告シンポジウム“フォトニック結晶と量子ドット”を開催、生産技術研究所次世代ディスプレイ		

## 平成16年度入学式祝辞（ビデオレター）

平成16年度入学式におけるハーバード大学学長、ソウル大学校総長の祝辞（ビデオレター）をご紹介します。

### Lawrence H. Summersハーバード大学学長祝辞

To the entering students of the University of Tokyo, Harvard University sends congratulations and a warm welcome.

Our universities have much in common:

Harvard and Tokyo are the oldest universities in our countries, Harvard and Tokyo are the most respected universities in their countries, Harvard and Tokyo both have provided many who have gone on to positions of national leadership.

National leadership in politics, in government, national leadership in the sciences, national leadership in the arts, national leadership in the great professions.

It is a great and remarkable journey that you are entering into, as you begin your university education.

To have achieved admission to Tokyo is a great accomplishment, and it is something that does not come easily.

It is a tribute to your brilliance, your skill and your hard work.

It is also a tribute to your families, and I hope you will pause for a moment to reflect on how much your parents, your brothers and sisters, your extended family have meant in bringing you to this great moment.

If entering Tokyo represents the culmination of a period of learning and education and growing up, and your admission to Tokyo marks the success with which you have carried out those crucial tasks, admission to Tokyo also represents the beginning of a great journey, a journey of a lifetime, a journey of exploration, a journey of learning, and I hope for many of you a journey of great contribution to our society and to our world.

You know it's not usual for the president of one great university to extend a welcome to the students of another great university, and I am very grateful to President Sasaki for extending me this opportunity.

I think President Sasaki extended me this opportunity - and I have accepted it with great enthusiasm - because of something we both feel very deeply. And that is that no longer can our universities be national universities as great a contribution as Harvard and Tokyo have made as national universities.

Increasingly the best learning, the best preparation for future careers, the best research and the best thinking, is going to come from universities that are global in their perspective.

And it's going to be terribly important that students and faculty take a global viewpoint.

No where is this more important than across the Pacific, where the relationship between my country and yours has been an anchor of the global economy and of the global system for nearly five decades.

Our connections between our two universities are one important facet of that very valuable relationship.

I hope during the time that you study and during the time after you graduate that as many of you as possible will have the opportunity to study, to work, and to experience the United States and that some among you will have the chance to spend time at Harvard University.

And at the same time we at Harvard University have changed our policies in recent years to make it possible for more students to study abroad, and certainly one of the areas that our students are very interested in studying is in Japan.

It's very difficult to give advice to people at your stage, and I am reluctant to presume to offer you advice. But I would provide you with just one thought. And that is this: The people who are most successful and who are most fulfilled in their professional lives are those who develop a passion, develop an expertise, develop a specialty, develop something in which they stand out and are distinctive.

In that way, one makes the greatest contribution; one occupies a special niche.

It is very, very tempting as a young person to follow the crowd - to walk the trail that has already been blazed, and many do that with extraordinary distinction.

But I would hope that you will consider how you can distinguish your own excellence and your own contribution because in that way, I think you may find the greatest satisfaction.

Remember also this; you are embarking on a great journey. In addition to what you learn while you are at the university, the friendships you form, the relationships you have, the connections you make will be something that lasts a lifetime.

Take what is before you.

If in doubt, do not hesitate, make new friends, meet new people, study new subjects.

The world is before you.

Harvard welcomes you.



平成16年度入学式  
Lawrence H. Summersハーバード大学学長祝辞（ビデオレター）

## 鄭雲燦ソウル大学校総長祝辞

親愛なる東京大学の新生生の皆様。

尊敬する佐々木毅総長はじめ、高名な先生方、そしてご来賓の皆様。

まず、本日、栄光の赤門を通られた新生生皆様のご入学を、心よりお祝い申し上げます。

また、この優秀な新生生を迎えられた佐々木総長をはじめ、多くの先生方へも心よりお祝い申し上げます。私は東京大学と特別な友好関係にあるソウル大学校の総長として、皆様にお祝いの言葉を申し上げられることを、限りなく嬉しく存じます。

皆様の活気あふれた姿を見、私は先月初め行なわれたソウル大学校入学式での心弾む喜びを改めて感じております。皆様も、そしてソウル大学校新生生もこれから国と世界の未来をリードして行く主役になると思うからであります。

振り返ってみますと、国際社会は、時に歴史の教訓を賢明に受け容れ繁栄と発展の時代を謳歌し、時には歴史の教訓を実践する意志・勇気を欠き、葛藤と停滞の時期を経てきました。

20世紀は、2回の世界大戦と数え切れない程の地域紛争により、人類に災害と苦しみをもたらしました。アジアの国々の苦痛と不幸な過去の傷跡は、韓国や日本において未だ陰りを残しております。

いまや、北東アジアの国々及び民族はこのような教訓を元に、互いに心から尊重し協力し合う資質と能力を育み、共に繁栄すべく、国際社会において中心的役割を担って行かなければなりません。

私は、傷だらけの20世紀を躍進の時代に変えたアジアの力を信じております。日本は、戦争の傷跡を克服して産業化に成功し、韓国や中国を含むアジアの国々は、それに続いてまいりました。私は、このアジアの躍進が、21世紀により強まることを確信します。

このような発展の流れはこれまで隠されてきたアジアのすばらしい伝統的価値感、例えば均衡・節制・調和・自然や環境を尊重する心などといった徳目をより活性化させ、人類文明の発展に大きく寄与することと信じております。

私は、今日のこの歴史的転換点において、未来の国際

社会を担う東京大学とソウル大学校の新入生の皆様が、共に肯定的かつ積極的に新しい世界史を切り拓く主役となられることを期待して止みません。

日本と韓国は、いろいろな面で多くの共通点を持っております。歴史的に最も深い関係にあり、言語や風習の面からも、共通点は数え切れないほどあります。私は、両国が不幸な記憶を清算し、未来に向けて前進することを、心から期待するものです。今後、両大学の新入生の皆様のような若者が、新しい心構えで力を合わせ協力すれば、韓日両国は、アジアはもちろん、世界の発展に大きく寄与することになるでしょう。

私は新入生の皆様がソウル大学校の学生たちと共に21世紀の新しい歴史における主役となられるよう、研究や教育の面において両大学の協力をさらに緊密にすべきと思っております。

ソウル大学校はここ数年の間に、「日本語講座」はもちろん「日本学プログラム」を開設しましたし、まもなく「日本学総合研究所」を設ける計画もあります。ソウル大学校の日本学研究と、すでに進んでいる東京大学の韓国学研究がさらに活性化するように、学生や先生方の交流及び共同研究を、より拡大していきたいと思っております。

このような両校の相互理解と協力は、韓国と日本の相生発展、ひいてはアジアと世界の共生発展に寄与し、世界市民のリーダーとしての資質の育成に役立つことと思っております。

大学生活の4年間は、かけがえのないものです。世界的な一流大学である東京大学で、人生の中で最も情熱的で美しい時間を過ごされることを心よりお祈りいたします。

改めて、ご入学をお祝いし、東京大学のさらなる発展を心からお祈り申し上げます。



平成16年度入学式  
鄭雲燦ソウル大学校総長祝辞（ビデオレター）



研究協力部

大学院学生学術研究奨励金の採択決まる

本学大学院学生の国外での研究活動に必要な助成を図るため「東京大学大学院学生学術研究奨励金」が昭和58年度から設けられているが、このほど学術研究奨励資金実施委員会において、平成16年度前期（6～11月）応募者の審査が行われ、44件の実施計画が採択された。応募者は120名であった。なお、研究科別採択状況は以下のとおりである。

研究科名	応募者数	採用者数	主な渡航先
人文社会系研究科	9	4	ロシア、インド、アメリカ、韓国
教育学研究科	5	2	中国、アメリカ
経済学研究科	5	2	ドイツ
総合文化研究科	17	5	ロシア、カナダ、フランス、アメリカ、中国
理学系研究科	15	5	フランス、イギリス、アメリカ、イタリア
工学系研究科	11	6	オーストラリア、イギリス、カナダ、アメリカ
農学生命科学研究科	22	5	ドイツ、イタリア、アメリカ、フィンランド、オーストラリア
医学系研究科	7	4	アメリカ、中国、オーストリア
薬学系研究科	4	2	ラトビア、スウェーデン
新領域創成科学研究科	17	5	アメリカ、イラン、中国、オーストラリア
情報理工学系研究科	3	2	アメリカ、イギリス
学際情報学府	5	2	アメリカ、ドイツ

大学院医学系研究科・医学部

大学院医学系研究科・医学部及び医学部附属病院における知的財産・利益相反に関する説明会の開催

平成16年4月より東京大学が国立大学法人化したことをふまえ、知的財産ポリシー及び利益相反ポリシーの周知とその理解を深めることを目的に、大学院医学系研究科・医学部及び医学部附属病院の教職員を対象として、4月30日（金）、医学部図書館333号室において説明会が開催された。当日は90名を超える教職員が参加し、知的財産ポリシー及び利益相反ポリシーに対する関心の高さがうかがえた。

医学系研究科知的財産・利益相反関連医学部内規等策定ワーキンググループ座長である門脇孝教授が司会を務めた。医学部知的財産室長である廣川信隆医学系研究科



廣川信隆医学系研究科長、開会挨拶

長の開会挨拶では、法人化に伴い知的財産・利益相反の問題に対して大学院医学系研究科・医学部及び医学部附属病院においても基本的体制を整備することの重要性が強調された。産学連携本部長である石川正俊副学長より、「東京大学の産学連携の基本方針」について講演が行われた。引き続き、産学連携本部知的財産

部徳永威久知的財産統括主幹より「知的財産部の業務・運営」に関して、産学連携本部知的財産部中筋亨知的財産統括主幹より「知財法務の管理・運営」に関して、そして産学連携本部知的財産部小蒲哲夫知的財産統括主幹より「特許出願の管理・運用」に関して、各々講演が行われた。



石川正俊副学長、「東京大学の産学連携の基本方針」について講演

その後の質疑応答では、会場参加者により知的財産を中心に活発な意見交換が行われた。最後に医学部利益相反アドバイザー機関長である赤林朗教授により

「医学研究におけるコンフリクト・オブ・インタレスト」に関して説明と閉会挨拶が行われ、盛会裏の内に説明会は終了した。



大学院農学生命科学研究科・農学部  
**北海道演習林に道内でも屈指の植物標本庫が完成**

北海道演習林の麓郷森林資料館敷地に、一年を通じて室温15度以下、湿度50%に保ち、カビと害虫の発生を防ぐ植物標本庫が完成した。床面積25平方メートル。標本の殺虫殺卵を行うための冷凍機も設置し、作製した標本や持ち出した標本も入庫前に凍結処理され、永久保存される。



完成した植物標本庫

北海道演習林内の植物は493分類群（106科379種114変種）とされてきたが、現在、35年間にわたり道内の植物相の研究を続けてこられた旭川西高等学校の堀江健二教諭（農学博士）を中心に演習林教員、技術職員がチームを作り、平成14年から調査研究を進めている。現時点で高等植物800分類群以上が同定されている。今後の調査で1,000分類群に迫るであろうと予測されている。この中には環境省と北海道の指定する絶滅危惧種60種も含まれる。道内の植物は1,600～1,800種といわれ、演習林わずか2万haにその半数以上が存在することになる。阿寒国立公園8万haで800種、札幌市11万haで1,300種といわれていることと比べても多様性の密度の高さがうかがえる。

北海道演習林は大雪山系の南端、日高山系の北端、夕張山地の東端が交わる場所、石狩川―空知川水系の源流域、まさに北海道の中央に位置する。演習林内は標高200mの平地林から大麓山1,460mのハイマツ帯まで標高差が大きく、低山帯は亜寒帯性常緑針葉樹と冷温帯性落葉広葉樹の世界的にも貴重な北方針広混交林が広がる。地質はおもに第四紀火山噴出物に覆われるが、中生界以降の石灰岩を含む堆積岩、変成岩、蛇紋岩が見られ、地質や地形の変化に富むことも植物相の多様性の一因となっている。北方系植物と南方系植物とが演習林内でちょうど混ざり合い、今回の調査で北限地が北海道演習林まで北上したものもいくつか確認されている。大雪山系、日高山系・夕張山地の各固有種とされるものや、アオノイワレンゲ、エゾスカシユリなどの海岸性の植物も分布している。これらの標本は本州やサハリン、千島列島などからの植物の分布経路を考える上でも貴重な資料である。

北海道演習林は原始の森を受け継いで、おもに択伐作業と天然更新によって事業的規模での森林経営実験を行ってきた。明治32年の創設以来、現在の森林総蓄積の1.5倍にあたる600万立方メートル以上の木材を生産してきたが、稀産種の群落を多く残しながら、本来の生態系を損なうことなく森林経営が行われてきたことがあらためて実証された。

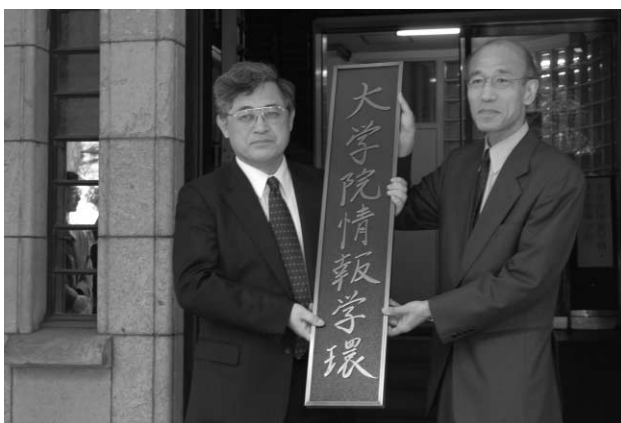
収蔵される標本は、多彩で遷ろい行く植物相を遺伝子までも含めたタイプカプセルとして後世にとどめる。



## 大学院情報学環・学際情報学府

### 新「大学院情報学環・学際情報学府」看板を掲げる

新「大学院情報学環・学際情報学府」は本年4月に大学院情報学環・学際情報府と旧社会情報研究所とが組織の融合を図ることにより誕生しました。新しい組織の学環長室などの管理部門は、旧社会情報研究所の歴史ある建物に配置されることになり、このたび佐々木総長をお迎えして、関係者約30人により、旧社会情報研究所の玄関に総長の筆による大学院情報学環・学際情報学府の看板が掲げられました。



看板を掲げる佐々木総長（左）と花田情報学環長（右）

大学院情報学環・学際情報学府は、情報学に関する文理融合、ときには文理越境の領域横断的な研究と教育を推進することを目的としています。旧社会情報研究所は、文系分野で、情報・コミュニケーション・ジャーナリズムについて学際的な研究を実施してきました。両組織の融合によって、学際的な情報学の総合的発展の基盤が整い、教育カリキュラムもより豊かな体系性を備え、さらなる発展が期待されています。

関係各位の新しい組織に対する引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

## 生産技術研究所・先端科学技術研究センター

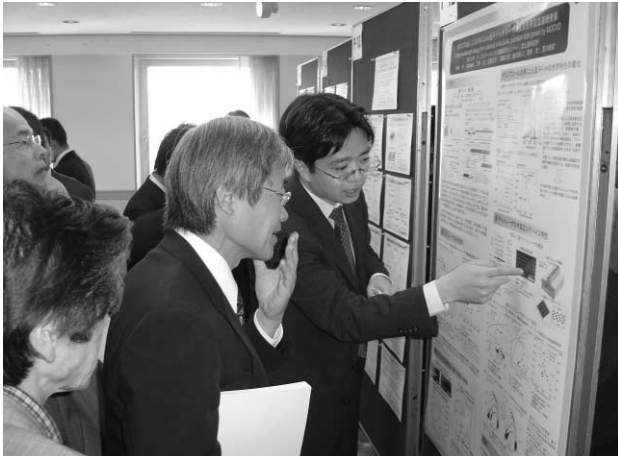
### 文科省・経産省プロジェクト合同成果報告シンポジウム“フォトリソグラフィと量子ドット”を開催

生産技術研究所・先端科学技術研究センターのナノエレクトロニクス連携研究センターでは、東北大学NICHeフォトリソグラフィ新機能デバイスプロジェクトと共催で、4月19（月）、20日（火）の両日、主婦会館プラザエフにおいて、“フォトリソグラフィと量子ドット”と題し合同成果報告シンポジウムを開催した。このシンポジウムは、荒川泰彦ナノエレクトロニクス連携研究センター長がプロジェクトリーダーを務める2つのプロジェクトである文科省世界最先端IT国家実現重点研究開発プロジェクト「光・電子デバイス技術の開発」と経産省高度情報基盤プログラム「フォトリソグラフィデバイス技術開発プロジェクト」、および東北大学川上彰二郎教授がリーダーを務める文科省科学技術振興調整費「3次元フォトリソグラフィの作製、解析法、デバイス展開の総合研究」の合同成果報告会である。ナノエレクトロニクスの中心的な2つの分野であるフォトリソグラフィと量子ドットに関するシンポジウムであることを反映して、350名を超える参加者が集まった。



講演に聞き入る満員の会場

フォトリソグラフィの先端的研究者であった池上徹彦会津大学長の基調講演をはじめとして、量子ドット増幅器や自己クロッシングフォトリソグラフィに関する研究成果報告など22件の講演があった。今回は、ポスターセッションが設けられ、40件に及ぶ発表があり、それぞれのパネルを前にして熱心な討論が行われた。今後とも、研究開発の進展、産業技術の発展に、産学官連携により貢献して行くことを約してシンポジウムを成功裏に終了した。



ポスターを前にして熱心な討論

**生産技術研究所  
生産技術研究所次世代ディスプレイ寄付研究部門発足記念シンポジウム「次世代ディスプレイの展望」開催される**

4月20日（火）、東京商工会議所（千代田区丸の内）において、生産技術研究所次世代ディスプレイ寄付研究部門発足記念シンポジウム「次世代ディスプレイの展望」が経済産業省等の後援を受けて開催された。本寄付研究部門は株式会社次世代PDP開発センター（APDC）の寄付により平成15年12月に設立されたものである。

シンポジウム前半は主催者である西尾茂文所長の挨拶に続いて5件の講演があった。荒川泰彦教授の講演では、わが国初のディスプレイ関連研究部門を発足させた意義と、産業界およびナノエレクトロニクス連携研究センターを中心とする本所の教官群との強い連携による、ディスプレイ研究拠点構築への期待が述べられた。本寄付研究部門に着任した篠田傳客員教授の基調講演では、研



篠田客員教授による基調講演

究・教育に最適な環境を最大限に活用して、次世代ディスプレイの提案、基盤技術開発、人材育成に取り組む決意が表明された。経済産業省を代表して商務情報政策局矢島秀浩課長補佐の講演では、大学・政府系研究機関を活用したニーズ型研究開発の重要性とそれを支援するディスプレイ産業施策が説明された。ドイツ証券佐藤文昭氏の講演では、2015年までは薄型テレビの需要拡大が続くと予測が示された。

シンポジウム後半は次世代ディスプレイに関する技術発表に当てられた。日本放送協会時任静士主任研究員による「高効率有機EL発光材料の研究」、電気通信大学志賀智一助教授による「PDP発光効率改善」、寄付研究部門梶山博司客員助教授による「PDP材料物性研究」の講演では、最新の研究成果と今後の課題がわかりやすく示された。続いて「次世代ディスプレイは如何にあるべきか」と題するパネルディスカッションがおこなわれた。司会者の軽妙な挑発に刺激されてか、各パネラーが液晶、PDP、有機EL、電界放出型テレビそれぞれの優位性を主張しあう白熱した議論が展開された。生き残りをかけた熾烈な技術競争の一端を垣間見ることができた。

シンポジウムの最後に、寄付者であるAPDC山田宰社長から独創的な技術開発と人材育成への強い期待が表明された。



シンポジウム風景

本寄付研究部門への関心と期待の大きさを反映して、シンポジウムには産業界をはじめ各方面から250名ちかい出席者があった。シンポジウム後に開催された懇親会にも110名を越える出席者がおり、時間いっぱいまで情報交換や歓談が続けられた。



## 海洋研究所

### 国際沿岸海洋研究センターにて今年度の海洋環境臨海実習が行われる

5月10日（月）から14日（金）にかけて、今回で3回目となる本学新領域創成科学研究科の新入大学院生の中から8名を対象とした海洋環境臨海実習が、国際沿岸海洋研究センター（岩手県上閉伊郡大槌町）にて行われた。

今回は、海洋観測の基本的手法、微生物・動植物プランクトンの生態実習、耳石を用いた魚類の生活史に関する実習、海棲哺乳動物解剖実習等が行われた。

参加した大学院生達は、本センター共同利用研究員宿泊所に宿泊し、小型船への乗船による海水・プランクトンの採取や耳石の測定、および学術的な海棲哺乳動物の解剖等、フィールドワークを重点とした本センターの特色を活用した実習の中で、東京の研究室では得られない貴重な経験におおいに満足した様子であった。

また、この実習は来年度も行われる予定である。



実習参加院生・担当教員と解剖前の海棲哺乳動物

## 附属図書館

### 柏キャンパスに柏図書館が5月13日部分開館



柏図書館外観

柏キャンパスに柏図書館が完成し、5月13日（木）部分開館として一部サービスを開始しました。柏図書館は柏キャンパスの中心的図書館として位置づけられ、また柏地区新領域創成科学研究科のホームライブラリーとしても機能します。

建物は、総面積約5,700㎡で、地上2階建、外壁はガラスカーテンウォールとなっており、開放感のある明るい建物です。図書館としてのスペースは2階部分にあり、1階にはセミナー室、コンファレンスルームや情報基盤センター教育用計算機システム端末、そして144席収容のメディアホールなどがあります。また、ロビー、レストコーナーなど気軽に立ち寄れる憩いのスペースを多く備えました。柏図書館は人、情報の集う場所を提供いたします。

さらに、空間を越えたサービスとして、全学を対象にeBookサービスを開始しました。eBookは書籍を電子化し、ネットワークで閲覧できるものです。現在約4,000タイトルが学内から自由に利用できます。詳しい利用法や利用可能なタイトル一覧は、柏図書館のeBook紹介ページ<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/eBook.html>をご覧ください。

今年秋には、自動化書庫（第1期50万冊収納）が完成し、柏図書館は正式開館します。この自動化書庫は全学資料共同利用センターとして本郷、駒場キャンパスから自然科学系雑誌バックナンバーを移送、収容し、学内外からの要求に応じ文献を電子化しネットワークで配信を行うe-DDS（電子的ドキュメントデリバリーサービス）システムを稼働します。これらのサービスの内容については下記ホームページを通じて随時お知らせします。柏図書館では、今後も更なるサービスの展開を行ってまいります。

柏図書館ホームページURL：

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa>

問い合わせ先：E-mail [k-lib@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:k-lib@lib.u-tokyo.ac.jp)

## 本郷キャンパス・ツアーガイドの募集

### 募集

東京大学は、大学の様々な活動に学生が積極的に参画することを奨励するために、意欲ある学部学生を「東京大学ジュニア・ティーチング・アシスタント」(略称「東京大学ジュニアTA」)に任命し、奨励金を支給する制度を開設しました。

この「ジュニアTA」制度を活用した第1弾として「本郷キャンパス・ツアー」のガイドを募集します。これは、本郷キャンパス(弥生キャンパス・浅野キャンパスを含む)の見学を希望する一般の方々をツアーを組んで、2時間程度で赤門・安田講堂・三四郎池・総合研究博物館等の「名所・旧跡」をわかりやすく説明しながらご案内するという仕事です。

ツアーは、当面、毎週火曜日の午前及び土曜日の午前と午後の週3回の実施を予定しています(期末試験期間と夏休み期間は除く)。

第一期は、6月下旬から11月中旬までとし、期間中、最低10回程度はガイド業務に参加可能な学生の方々の積極的な応募を期待します。

### 本郷キャンパス・ツアーガイド募集要項

#### 1. 募集人員

本郷キャンパスに在籍する学部学生 約20名  
(留学生の応募も歓迎します。)

#### 2. 業務内容

- ・毎週火曜日と土曜日にキャンパスツアーを実施し、そのガイドを2人一組で行います。
- ・ツアーは、参加者を公募し、午前10時～12時、午後13時30分～15時30分とし、30名までを一組として行います。
- ・ツアーは、大学紹介ビデオの鑑賞の後、大学の歴史、学生生活などを紹介しながら、「名所・旧跡」等を案内します。
- ・火曜日と土曜日以外の平日にツアー参加希望者がある場合は、ガイドの中で都合のつく者がいる場合に追加して実施します。

#### 3. ツアー実施予定日

6月29日(火)～11月13日(土)の期間の毎週火曜日及び土曜日(期末試験期間と夏休み期間は除く)  
必要に応じ、月曜日から金曜日の授業等の空き時間

#### 4. 手 当

ガイド業務1回につき奨励金 4千円

期間中10回のガイド業務に携わった場合の奨励金

4万円

(これを超える実績をあげた者には奨励金を上積みします。)

#### 5. 照会及び応募先

学生部厚生課奨学第一係

電話5841-2547～8(内線22547～8)

#### 6. 応募締切日時

6月11日(金)17:00

#### 7. 採用等

後日、応募者の中から面接により、採用者を決定し、ガイダンスを行います。



生産技術研究所、先端科学技術研究センター、人工物工学研究センター、国際・産学共同研究センター、空間情報科学研究センター、気候システム研究センター  
駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）一般公開

お知らせ

駒場リサーチキャンパス（駒場Ⅱ）では、下記のとおり6つの研究所・センターにおいて、2日間にわたり下記の講演を含めた研究室の一般公開を行います。

皆様のご来場をお待ちしております。

日 時

6月3日（木） 10：00～17：00

6月4日（金） 10：00～16：00

（両日とも終了の1時間前までにご来場ください。）

場 所

東京都目黒区駒場4-6-1

駒場リサーチキャンパス

小田急線・東北沢駅から徒歩7分

小田急線・地下鉄千代田線・代々木上原駅から徒歩12分

京王井の頭線・駒場東大前駅から徒歩10分、池ノ上駅から徒歩10分

研究室公開

【詳細につきましては、各URLをご覧ください】

- ・生産技術研究所 [IIS]  
URL <http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/announce/>  
TEL 03-5452-6008～9
- ・先端科学技術研究センター [RCAST]  
URL <http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>  
TEL 03-5452-5383～4
- ・人工物工学研究センター [RACE]  
URL <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/>  
TEL 03-5453-5882
- ・国際産学共同研究センター [CCR]  
URL <http://www.ccr.u-tokyo.ac.jp>  
TEL 03-5452-6022
- ・空間情報科学研究センター [CSIS]  
URL <http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/>  
TEL 03-5453-5690
- ・気候システム研究センター [CCSR]  
URL <http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/>  
TEL 03-5453-3950

講演プログラム（申し込み不要、聴講は無料です。）

【CCRシンポジウム】

「ITS事業化に向けた産官学連携－CCRから翔たくサステイナブルITS－」

先端研講堂：先端研4号館2階講堂

6月3日（木）

基調講演

10：05～10：35：田端祥久（経済産業省）

パネル 「ITS事業化に向けた産官学連携」

10：35～12：00

司 会：桑原雅夫（CCR）

パネラー：田端祥久（経済産業省）

室城信之（警察庁）

斧田孝夫（国土交通省）

和久井博（株）社会システム研究所

織田利彦（松下電器産業(株)）

野口好一（トヨタ自動車(株)）

【講演会】

生研会議室：生研D棟6階第1階会議室（Dw-601）

6月3日（木）

13：00～13：50：加藤信介（IIS）

「シックハウス：室内化学物質空気汚染の現状と対策」

6月4日（金）

10：20～11：10：須田義大（IIS）

「新世代のモビリティを担うベークル運動制御技術」

11：20～12：10：溝部裕司（IIS）

「金属酵素活性部位をモデルとした高活性金属クラスター触媒の創製」

13：00～13：50：堀洋一（IIS）

「電気と制御で走る近未来車に関する研究」

【講演会】

先端研講堂：先端研4号館2階講堂

6月3日（木）

14：00～14：50：御厨貴（RCAST）

「安全安心学のススメ－文理融合の課題－」

15：00～15：50：浅見泰司教授（CSIS）

「見えないものを見えるようにするための空間情報解析」

16：00～16：50：上田完次（RACE）

「共創工学のめざすもの－人工物工学研究センターのチャレンジ－」

6月4日（金）

14：00～14：50：木本昌秀教授（CCSR）

「気候モデル－コンピュータの中の地球－」

15：00～15：50：伊福部達教授（RCAST）

「「見る」「聞く」「話す」ためのバリアフリー研究が拓く明日」

史料編纂所

## 第9回東京大学史料編纂所史料学セミナー

### お知らせ

今回は、本所で研究・出版の対象となっている史料群を素材として「史料群からみる史料学」をテーマに開催いたします。

【会場】史料編纂所

【講義日程】(毎回13:30~16:50)

第1回 9月25日(土)

石上 英一

「正倉院文書」における機能と様態

遠藤 基郎

南都東大寺の中近世史料

第2回 10月9日(土)

高橋慎一郎

「醍醐寺文書」にみる寺院社会

松方 冬子

「オランダ植民省文書」からみたウィレムⅡ世の開国勸告

第3回 10月23日(土)

山田 邦明

戦国大名家文書の特質

高島 晶彦・谷 昭佳

古文書のかたちを探る—分析と表現の方法—

第4回 11月6日(土)

山本 博文

「島津家文書」にみる徳川將軍政治の空間

吉田 早苗

裏松固禪と『大内裏図考証』

第5回 11月20日(土)

小宮木代良

近世初期大名家臣の家文書について

—立花家臣「矢島家文書」の場合—

宮崎 勝美

大規模武家文書群「益田家文書」の構造

### 【募集要項】

募集対象 日本史学を専攻する大学院生・学生、史料・図書を扱う仕事や歴史教育に従事される方。

\*日本史を専攻する留学生(大学院生)及び外国人若手研究者のご応募もお待ちしています。

募集人員 約30名(応募者多数の場合は抽選)

募集期限 7月7日(水)

応募方法 はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、職業または所属学校・学年を記し、下記の申込先までお送りください(期限内必着)。

受講料 7,200円(全10講分)

申込先 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学史料編纂所事務部庶務係

電話 03-5841-5943・5944

史料編纂所ホームページ

(URL: <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>)でも案内をご覧いただけます。





総合研究博物館

## 総合研究博物館+大学史史料室「東大総長の プレゼンス—渡邊洪基から内田祥三まで」展 開催のご案内

お知らせ

平成16年4月1日、東京大学は「国立大学法人」として新たなスタートを切りました。今後は総長の存在がますますクローズアップされることと思われます。本展はこの機に歴代東大総長にまつわる美術作品や学術標本を展示公開しようというものです。

大学史研究においても総長の存在は大きな意味を持っています。もっとも本展では実物展示の空間的・造形的特性を鑑み、制度史的な側面より、個々の総長の存在、あるいはそれを示すものへ焦点をあてています。

肖像は総長の存在を最も直截に示すものの一つです。歴代東大総長をモデルとする美術家の作品が学内外に伝わっています。本展では帝国大学初代総長渡邊洪基の肖像画（大学史史料室蔵）、第2代総長加藤弘之の肖像彫刻（総合研究博物館小石川分館）のほか、理学系は第6代・第9代総長（第2代理科大学長）山川健次郎の肖像画・彫刻（理学部及び武蔵学園蔵）、農学系は第7代総長（初代農科大学長）松井直吉及び第10代総長（第2代農科大学長）古在由直の肖像彫刻（農学部及び福井市美術館蔵）、医学系は第12代総長長與又郎の肖像彫刻（医

学部及び医科学研究所蔵）が展示されています。

学術標本は総長の広範な活動の一端を示すものといえます。本展では前出の渡邊・加藤の文書（大学史史料室蔵）のほか、文学系は第4代総長（初代文科大学長）外山正一の草稿（総合図書館蔵）、法学系は第11代総長小野塚喜平次の蔵書（法学部蔵）、工学系は第13代総長平賀譲及び第14代総長内田祥三の図面・部品（大学史史料室及び総合研究博物館小石川分館蔵）が展示されています。

このほかにも大学一般に関わるものとして、戦前のキャンパスの光景を捉えた貴重な映像資料や、公印・銀時計の実物を展示公開しています。

本郷・白金の長與又郎像（いずれも日名子実三作）は制作をめぐる総長と美術家のやりとりも分かっており、前者のたたずまいがより動的なのは美術家の心理を反映したものとも言われています。また身近には現サッカー日本代表公式ユニフォームのエンブレム（八咫鳥=やたがらす）の意匠も同氏が手がけたものとされています。小野塚喜平次文庫は和書約3,000冊、洋書約2,700冊に及ぶ膨大なもので、本展ではその一部が展示室正面両側の古い書棚へ収蔵した形で展示されています。映像資料は皇居・靖国神社が映されるなど戦時色の濃い面もありますが、戦災焼失した本郷前田侯爵邸洋館や、何よりキャンパスを拠点とする人々の表情や仕草を生き活きと伝えるものとなっています。

本年は法人化に加えて、大正初頭に最初の公選総長となった山川健次郎生誕150周年にあたっており、出身地の会津では従来に増して話題を集めていると聞きます。過去にも東京大学創立120周年記念東京大学展（平成9年）、「博士の肖像」展（平成10年）など大学全体に関わるものから、直前の「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展（平成16年）など個人を深く掘り下げたものまで、数々の展示が行われてきました。ささやかながら本展を通して総長の存在、あるいは大学の由来への関心が高まり、ひいては学内外を通じた歴代総長コレクションの調査研究が進む一助ともなればと思います。

最後になりましたが展示に一方ならぬご協力を賜った関係諸機関へあらためて謝意を表します。

会 期：4月29日(木)～8月29日(日)

休 館：毎週月曜

(ただし7月19日(月)開館、7月20日(火)閉館)

開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)

会 場：総合研究博物館内新規収蔵コーナー

入 場 料：無料

U R L：http://www.um.u-tokyo.ac.jp

問い合わせ先：03-5777-8600 (ハローダイヤル)



展示室の光景（総合研究博物館・本郷）

## 情報基盤センター データベース定期講習会のお知らせ

### お知らせ

情報基盤センター図書館電子化部門では、下記のとおりデータベース定期講習会を実施します。

データベースを利用した最新の文献調査方法に関する講習会です。パソコンを使った実習を中心にを行います。どうぞお気軽にご参加ください。

また、今年度よりネイティブスピーカーの講師による英語編を実施しています。留学生の方のご参加もお待ちしております。

#### ●会 場

総合図書館1階メディアプラザI 講習会コーナー

#### ●時間帯

11:00~12:00、15:00~16:00、18:00~19:00

#### ●定 員 12名 (先着順)

#### ●参加方法

参加予約は不要です。

ご都合の良い時間帯を選んで、開始時間までに会場に直接お越し下さい。

#### ●各コースの内容

	コース名	内 容
基本 コ ー ス	入門コース	・授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。
	本/雑誌を探す	・OPACなど基本的なデータベースを使った実習を中心に、効率的な文献の探し方を紹介します。
	実践コース(1) 文献 データベース	・雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
	実践コース(2) 引用索引データベース (Web of Science)	・引用索引データベース (Web of Science) の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
	実践コース(3) 電子ジャーナル	・東京大学で利用できる代表的な出版社の電子ジャーナルの利用方法を紹介すると共に、各種データベースを用いた文献検索の実践演習を行います。

#### ●スケジュール (6月~8月)

月	火	水	木	金
5/31	6/1	6/2	6/3 15:00-16:00 実践(2)	6/4
6/7 11:00-12:00 実践(3)	6/8 英語編 15:00-16:00 実践(3)	6/9	6/10	6/11
6/14	6/15 18:00-19:00 基本	6/16	6/17	6/18
6/21	6/22	6/23 11:00-12:00 実践(2)	6/24 休館日	6/25
6/28 英語編 11:00-12:00 実践(1)	6/29	6/30	7/1	7/2 15:00-16:00 実践(3)
7/5	7/6	7/7 英語編 15:00-16:00 実践(3)	7/8 11:00-12:00 基本	7/9
7/12	7/13	7/14 18:00-19:00 実践(2)	7/15	7/16
7/19 休日	7/20	7/21	7/22 休館日	7/23
7/26 18:00-19:00 実践(3)	7/27	7/28	7/29	7/30
8/2	8/3 15:00-16:00 基本	8/4	8/5	8/6
8/9	8/10	8/11	8/12	8/13 18:00-19:00 実践(2)
8/16	8/17	8/18 11:00-12:00 実践(3)	8/19	8/20
8/23 18:00-19:00 基本	8/24	8/25	8/26 休館日	8/27

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/>

なお、情報基盤センターでは定期講習会の他、データベース出張講習会も実施しております。ご要望に応じた内容で研究室までお伺いしますので、授業やゼミ等で活用下さい。

希望の日時、内容等をメールでお知らせ下さい。スケジュールを調整の上、折り返しご連絡します。

●申し込み先 学術情報リテラシー係 (22649)  
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

大学院農学生命科学研究科・農学部

## 第26回東京大学農学部公開セミナー「機能性食品と健康」開催

お知らせ

大学院農学生命科学研究科・農学部では、以下の要領でセミナーを開催します。

無料で、どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

### 第26回東京大学農学部公開セミナー 「機能性食品と健康」

司会：寄付講座 機能性食品ゲノミクス  
客員助教授 松本 一朗

「健康を守る新食品『トクホ』を知ろう」

応用生命化学専攻 教授 清水 誠

「腸内細菌叢から見た機能性食品」

獣医学専攻 助教授 伊藤喜久治

「機能性食品とニュートリゲノミクス」

応用生命化学専攻 教授 阿部啓子

日 時 6月12日(土) 13時30分～

場 所 農学部 弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1

地下鉄南北線 「東大前」下車 徒歩1分

地下鉄千代田線 「根津」下車 徒歩7分

対 象 一般(どなたでも参加できます)

定 員 300名(当日先着順)

問い合わせ先

農学系総務課 広報情報処理係

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

電話 03-5841-5484、8179

参加費 無料

主 催 大学院農学生命科学研究科・農学部

共 催 (財)農学会



### 原稿募集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数800字以内(写真がある場合は文字数を控えめにしてください。)
- ・写真には、キャプション(説明文)を添えてくださるようお願いいたします。

送付先 東京大学総務部広報課

TEL: 03-3811-3393 内線: 82032、22031

FAX: 3816-3913

E-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

原稿の締切は毎月第1・3水曜日、配付は翌々週の火曜日です。ただし、該当日が祝日の場合や、8月、12月を除きます。

平成16年度の学内広報の発行スケジュール

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

## 理科離れとラジオ少年

我々の世代の理系人間にはもとラジオ少年や昆虫少年が多い。ただしラジオ少年がそのまま物理学や工学を、昆虫少年が生物学や医学を専門にしているわけでは必ずしもない。ゲノム解析のリーダーのK先生はもとラジオ少年とのことだし、分子遺伝学を専門とする私も中学生時代はアマチュア無線にはまっていた。当時秋葉原には無線機器の部品を扱う小店舗、いわゆるジャンク屋が軒を連ね、私は小遣いをためては学校帰りに寄り道をしていた。回路図通りに受信機や送信機を組み立てるとききちんと作動するのが無性に楽しかった。真空管の働きは中学生の頭でも何とか理解できたが、動作の原理が理解できないトランジスタにはさほど夢中になれなかった。

アマチュア無線初級の電信級は、トン・ツーを組み合わせたモールス信号で1分間に数十文字を送受できることが免許の一要件だった。情報通信速度では今日のインターネットの100万分の1にも及ばない。しかし、いくらケータイを



便利に使いこなしていても、現代人のほとんどはその仕組みを理解することなど最初から放棄しているであろう。理科に興味をもたせるという意味ではトン・ツーで言葉を送る初歩的な体験のほうが遙かに勝っていたように思われる。かつて教育課程に影響力を持つ人が、自分は数学が全く分からないが、そのために生活に不自由を感じたことはないという趣旨の発言をしたことがあった。航空機が飛び、新幹線が無事故で走り、電話で会話できることの背景を考えたこともない発言と一笑に付すこともできるが、世の中が便利になり、科学技術の成果を無意識に享受することが当たり前になってしまった今日、理系人間の好奇心はどこに芽生え、どのように育まれているのだろうか、もとラジオ少年としては気を揉んでいる。人手によって作り上げられたテレビゲームはかつてのラジオや昆虫採集の代わりになるのであろうか。そういえば、ラジオ少女や昆虫少女という言葉は昔から耳にしない。ここにもまたひとつ考えてみるべき問題がひそんでいるようだ。

(大学院理学系研究科 山本正幸)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

[訂正]

「学内広報」において一部誤りがありましたので、訂正してお詫びします。

No.1288 (2004.4.14)

3 ページ左段27行目

(誤) 任期：平成16年4月～平成17年3月 → (正) 任期：平成16年4月～平成18年3月

3 ページ左段34行目

(誤) 任期：平成16年4月～平成17年3月 → (正) 任期：平成16年4月～平成18年3月

No.1290 (2004.5.12)

2 ページ右段23行目

(誤) 200万か所 → (正) 20万か所

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1291 2004年5月26日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393  
e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/index-j.html>



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO